

平成30年度  
庄原市児童生徒科学研究の進め方についての研修会

- 日時：平成30年5月23日（水）14：00～16：35
- 場所：庄原市総合体育館 2階会議室
- 参加者：庄原市内各小・中学校の教職員27名
- 目的：科学的な態度や能力を育て、問題解決の方法を習得させる科学研究の進め方について研修し、庄原市内各小・中学校の科学研究を推進する。

【実践発表】「みんなで調べた科学研究 ～びっくり！どこがちがうの？たんぽぽとぶたな～」  
庄原市立口北小学校 教諭 西山 明美

【特に大切にしたこと】

○テーマの決定

- ・児童の「なぜだろう」という疑問を大事にしながら、研究の内容や方法について見通しをもち、児童が自分でテーマを決めたという実感をもつことができるよう助言した。

○発達段階に応じた記録やまとめ

- ・1年生でも100以上の種子の数を正確に数えられるようワークシートを工夫する、客観的に種子の大きさを比較できるよう種子を硬貨と重ねるなど、発達段階や既習内容に応じた指導をした。



【参加者の感想より】

- テーマ設定時に、指導者が見通しをもった上で、子供たちが自分で決めたと思わせる手立てがすばらしかった。ストーリー性をもたせるということを参考にしたい。
- 研究結果のまとめ方の工夫が大変参考になった。調べることを明確にすることが大切だと分かった。

講話・演習「科学研究の進め方」

講師：広島県立教育センター 企画部 指導主事 末田 純司



【講話・演習から】

- 科学研究は、「探究の過程」のフルコースであり、各校が育成を目指す資質・能力の育成に適している。
- 児童生徒が主体的に取り組むこと、単なる活動に終わらず、事象に対して、なぜこのような事象が生じるのか思考することが重要である。
- 課題設定の際、児童生徒が研究目的や内容、方法について明確にし、焦点化するところまで、指導者はしっかりと指導助言をする必要がある。
- 指導者は、児童生徒と一緒にわくわくしながら研究をすること、科学研究を通じた児童生徒の成長を喜ぶことが大切である。

【参加者の感想より】

- 観察や実験の視点を明確にさせること、信頼性のあるデータを取らせることが大切であることが分かった。
- 特選作品のパネルを実際に見ることができ、科学研究に対する着眼点が広がり、参考になった。
- 段階を追って児童に問うことで、テーマの決定、仮説、実験方法などを、児童から引き出し、見通しをもった研究となるよう学校でも指導したい。